

## 平成30年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成31年 4月 5日
研究・研修課題名	がんのリハビリテーション研修修了のための研修補助
研究・研修組織名(所属)	島根大学医学部附属病院(リハビリテーション部)
研究・研修責任者名(所属)	道端ゆう子(リハビリテーション部)
共同研究・研修実施者名(所属)	高見悠(医師)、今岡繭(看護部)、黒崎育美、佐々木翔太、錦織航(リハビリテーション部)

区分	<input type="checkbox"/> 学会発表、 <input type="checkbox"/> 論文掲載、 <input checked="" type="checkbox"/> 資格取得、 <input type="checkbox"/> 認定更新、 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得、 <input type="checkbox"/> その他の成果( )
該当者名(所属)	高見悠(医師)、今岡繭(看護部)、黒崎育美、佐々木翔太、錦織航(リハビリテーション部)
学会名(会期・場所、認定名等)	第4回 島根がんのリハビリテーション研修会
演題名・認証交付先等	島根がんのリハビリテーション研修会実行委員会
取得日・認定期間等	2018.9.16(取得日)

### 目的及び方法、成果の内容

#### ①目的

当院はがん診療連携拠点病院であり、がん患者へのリハビリテーションの提供が必須である。がん患者リハビリテーション料を算定するには、指定された研修を修了した医師が指示書を処方することと、指定された研修を修了した療法士が担当することが条件となっている。がん患者に対するリハビリ依頼は増加傾向であり、既に研修を修了した6名の医師と19名の療法士でも対応が困難となっている。特に理学療法部門へはがん術前後の依頼が増え、即日対応を求められることも増えている。よって、新たに指示書を処方できる医師とがん患者リハビリテーション料が算定できる療法士を増やし、より質の良い対応ができることを目的とする。

#### ②方法

島根がんのリハビリテーション研修会実行委員会が主催し、平成30年9月15～16日に実施される「第4回島根がんのリハビリテーション研修会」に医師1名、看護師1名、療法士3名がチームで参加する。

#### ③成果

研修の受講により、がん患者のリハビリテーションを実施するうえで必要な知識とスキルを身に付けることができた。また、多職種で同じ内容を共有することができた。去年まで9コマの講義であったが、今年には13コマに編成されており、より臨床場面で悩む内容について知識を得ることができた。

- 1) がんのリハビリテーションの概要
- 2) 周術期のリハビリテーション(乳がん、頭頸部がん)
- 3) 周術期のリハビリテーション(開胸・開腹術、脳腫瘍)
- 4) 化学療法・放射線療法に関連する有害事象
- 5) 造血器腫瘍・造血幹細胞移植のリハビリテーション
- 6) 転移性骨腫瘍に対するリハビリテーション
- 7) ADL・IADL障害に対するリハビリテーション
- 8) がんリハビリテーションにおける看護師の役割
- 9) がん患者の摂食・嚥下障害、コミュニケーション障害
- 10) 口腔ケア
- 11) がん患者の心理的問題
- 12) がん悪液質に対するリハビリテーション
- 13) 進行したがん患者に対するリハビリテーション

また、

- 1) がんのリハビリテーションの問題点
- 2) 模擬カンファレンス
- 3) がんのリハビリテーションの問題点の解決

という実践に即したグループワークもあり、課題をチーム内のスタッフや他病院のスタッフの意見を聞き協議することができた。これによりがん患者のリハビリテーションに必要なチーム力を高めることができた。また、他の病院の特徴や問題点、解決策などを聞くことにより、各病院の実情や工夫点を知ることができ、県内開催のメリットも得られた。

今回はがんのリハビリテーションの依頼が増えている理学療法に対応できるよう、理学療法士3名が研修に参加した。よって、がんに関連する様々な手術や治療によって必要になるリハビリテーションへの対応がよりスムーズになった。特に手術前から呼吸機能合併症予防や体力向上を目的としたリハビリテーションの依頼が増えており、術後の合併症減少ならびに早期退院という効果も期待されている。

収益の効果としては、特に理学療法部門のがんのリハビリテーション料は、平成29年度は約886万円であったものが、平成30年度には974万円と92万円の増収が得られた。

この研修参加により本院では「がん患者リハビリテーション料」が算定可能な療法士が19名から21名(療法士全体の75%)に増えた。今後もニーズが多様化し、増え続けるがん患者に対応すべく、対応できる医師や看護師、療法士数を検討するとともに質の高いリハビリテーションを提供できる力を強化していきたい。